

と、フレクスナー博士も、ふしぎに思っていたということです。

こんなことから、英世に、『人間ダイナモ（発電機）』というあだ名さえつきました。

細菌学者、野口英世

特に、野口英世の名前を世界的なものにしたのは、「スピロヘーター・パリード」の純粹培養に成功したことでした。それは、アメリカにきてから、十一年目、三十五歳のときでした。

野口英世の名声が高まるにつれ、各国から博士号や勲章が、送られてきました。日本からも、博士号や賞が届きましたが、日本には帰りませんでした。けれども、ある日、英世のもとに、母の写真が送られてきました。